



## 第2部

# 通史 [2004-2013]

どんな苦難にも屈することのない凜とした心。

東日本大震災からの復旧・復興へ向け、

試練を翼にかえ大きく羽ばたいた

激動の10年を振り返る、須賀川、明日への軌跡。

多くの市民がボランティアとして参加した市民手づくりの式典

# 市制施行50周年を迎え 住民参加の記念式典を開催



市制施行50周年記念事業  
まちなか大発見わくわくウォーク  
(4月18日)

S U K A G A W A

# 2004

## 須

賀川市は昭和29年に市制をスタートしてから、平成16年の3月31日に50周年の節目を迎えました。

50周年を前にした14年11月、多くの市民が参加して祝うことのできる記念事業とするため、市民から委員を募集して市制施行50周年記念事業実行委員会（市民実行委員会）が結成されました。市民実行委員会は、20歳代から70歳代までの27人で構成され、記念事業について様々な意見が交わされ、本市の歴史や文化を再認識する「まちなか大発見わくわくウォーク」や、市民による「みんなの合唱祭」などが計画されました。

記念式典は3月26日に挙行されました。開式の前には須

賀川50年の歩みを振り返るビデオ放映があり、アトラクションとして「夢・すかがわ2050作文」の入賞作品の朗読や、中・高校生、一般市民約200人による合唱などが行われ式典に花を添えました。また、式典やアトラクションの様子は市ホームページなどで生中継されました。

記念式典は企画はもとより、当日の運営や受付をはじめ、会場案内、司会進行など、多くの



市制施行50周年記念式典

市民がボランティアとして参加しました。市制施行50周年を記念する式典は、まさに市民の手づくりの式典として盛大に開催されました。



中学生や高校生ら約200人で編成する市民合唱団



市消防操法競技大会（6月27日）



全国高校野球選手権大会県大会で県立清陵情報高校が準優勝（7月25日）



大東地区健康づくりの会がふれあいウォーキング大会を開催（9月12日）

## あきない広場アトリウム「まちなかプラザ」オープン

この年、中心市街地のあきない広場が、鉄骨造りガラス屋根の全天候型の多目的施設「まちなかプラザ」として生まれ変わりました。

施設内は、簡易な音響装置、展示スペース、休憩用ベンチやトイレなどが備えられ、各種展示会、フリーマーケット、町内会の催しやレクリエーション、ビデオ上映会など、様々な催しに対応できるようになっています。7月1日にオープンし、7月10日のオーブンディングイベントは、松明太鼓の演奏やよさこい踊りで盛り上がりしました。



開放感あふれる「まちなかプラザ」

## 須賀川産ブランド米の愛称「ぼたん姫」に決定

須賀川産のコシヒカリを地域のブランド米として売り出すため、本市とJAすかがわ岩瀬では、愛称とロゴマークを一般公募しました。

市内はもとより県内外から460点もの応募があり、9月6日に開催された選考委員会において、多数の応募作の中から最優秀賞は「ぼたん姫」に決定しました。

10月11日に表彰式が行われ、同時に須賀川産のおいしいブランド米「ぼたん姫」の販売が開始されました。



第一中学校合唱部が全日本合唱コンクール全国大会で金賞と府中市教育委員会賞を受賞（11月19日、報告会の様子）



11月10日、学校給食優良校として学校給食文部科学大臣表彰を受賞した西袋第二小学校



市制施行50周年記念事業「みんなの合唱祭」開催（11月21日）

## Chronicle of 2004

- ◎2月 須賀川史談会が(財)福島県文化振興基金顕彰を受賞  
須賀川駅並木町線（北町坂）国道118号の整備が完了
- ◎3月 市制施行50周年記念式典が市民ボランティアにより挙行。中学生や高校生ら約200人で編成する市民合唱団による市歌斉唱などが行われる
- ◎4月 白鳩保育園と若葉児童館新築開館  
「カーテンタウン虹の台」50区画の分譲を開始  
柏城児童クラブ館開館  
市制施行50周年記念事業まちなか大発見わくわくウォークを実施
- ◎5月 下宿土地区画整理事業が完成し、この地域の名称が「下宿町」となる  
市制施行50周年を記念して函館市から贈られたイチイの木50本を須賀川牡丹園内に植樹
- ◎6月 西袋中学校屋内運動場が文教施設協会賞を受賞、公立学校優良施設として表彰される
- ◎7月 あきない広場アトリウムの愛称が「まちなかプラザ」に決定し、供用を開始  
須賀川市長選挙で相楽新平氏が無投票で当選（3期目）
- ◎8月 須賀川市・長沼町合併協定調印式
- ◎10月 須賀川産コシヒカリ「ぼたん姫」発表会  
須賀川市・岩瀬村合併協定調印式  
台風23号で224世帯に避難勧告、床上浸水10棟、床下浸水22棟
- ◎11月 市制施行50周年記念事業「みんなの合唱祭」開催

それぞれの地域の自然環境・歴史・伝統文化を生かしたまちづくり

# 「新市誕生」須賀川市、長沼町、岩瀬村が合併する



200人が参加した席書大会 (1月8日)

S U K A G A W A

2005

平

成17年4月1日、須賀川市、長沼町、岩瀬村が合併して新しい須賀川市が誕生しました。

合併は、本格的な地方分権社会が進行し、多様化する市民ニーズに対応した質の高い行政サービス、行財政基盤の確立などを積極的に推進するためのもので、新しい須賀川市は人口8万人余りとなりました。

合併の経緯としては、平成12年に市内に「広域行政に関する研究会」が設置され、約一年間をかけて合併に関する調査、研究を行いました。その結果、13年3月に「地方分権社会の本格的到来の中で、市町村合併は避けては通れない重要課題であり、今後本格的に検討する必要がある」と



長沼支所開所式 (4月1日)

の報告書がまとめられました。平成14年7月に合併の賛否などに関して市民の意見を聞く「まちづくり市民意識調査」(2千人を抽出、回収率27・5%)を実施したところ、合併賛成が48・4%、反対が24・9%、分らないが23・6%という結果が出ました。平成16年には「須賀川市・

長沼町合併協議会」、「須賀川市・岩瀬村合併協議会」が、相次いで設置され、住民に合併についての情報を提供しつつ、新市建設計画など、様々な項目について協議されました。

こうした取り組みを経て平成17年4月1日に新しい須賀川市が誕生し、文化センターで福島県知事をはじめ関係者約600人が参列し合併記念式典を挙行しました。

新たな一歩を踏み出した本市は、それぞれの地域が持つ個性や歴史、伝統文化、自然環境などの貴重な資源を生かしたまちづくりを目指すこととなりました。



須賀川市、長沼町、岩瀬村の合併記念式典を挙行 (4月1日)



岩瀬支所開所式 (4月1日)



笑顔が集う須賀川市成人式 (1月9日)

## 須賀川市役所がISO14001の認証を取得

地球環境を守り、持続可能な社会の実現を目指すという時代の要求に応え、須賀川市役所では地球環境の保全に向けて積極的に取り組みを進め、ISO14001の認証を取得しました。

ISO14001は、環境マネジメントシステムを構築するために満たすべき必須事項を定めた国際規格です。「紙、ごみ、電気」を削減するエコオフィス活動をはじめ、環境保全を効率的、かつ継続的に行うシステムを構築し、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から循環型社会へ移行することを目指しています。現在は、本市独自のシステムにより効率的な取り組みを推進しています。



夏季少年健全育成球技大会 (7月30、31日)



みんなで飾った雛人形展 (3月)

## すかがわ手作り市民劇第3弾「乙女桜」貴方がいて私がいる」が上演



すかがわ手作り市民劇第3弾「乙女桜～貴方がいて私がいる～」

8月6日・7日、文化センターで、すかがわ手作り市民劇の第3弾「乙女桜」貴方がいて私がいる」が上演されました。今回の市民劇は、須賀川桐陽高校にある「種まき桜」と「太郎松」にまつわる悲しい伝説がモチーフ。フィナーレの「貴方は一人

じゃない。周りの人たちがいて、支えあって生きていくことを」という言葉は、観客に大きな感動を与えました。



ISO14001登録証



岩瀬グリーンロードレース大会 (6月5日)



掛け声が響く長沼まつり (9月10日)



2005ふくしまふるさとCM大賞で大賞受賞

- Chronicle of 2005
- ◎1月 西袋中学校屋内運動場が福島県建築文化賞特別部門賞を受賞
  - ◎2月 市役所がISO14001の認証を取得  
名古屋路線初便が就航
  - ◎3月 長沼町閉町式  
岩瀬村閉村式
  - ◎4月 「新市誕生」須賀川市、長沼町、岩瀬村が合併し合併記念式典を挙行。長沼支所・岩瀬支所開所式  
合併後初の臨時議会を開催  
北町あじさい公園・北町坂竣工記念式  
「読み聞かせの会ポケット」が文部科学大臣表彰を受賞
  - ◎5月 下宿土地画整備事業竣工式
  - ◎6月 「須賀川に清流を取り戻す市民の会」が地域環境保全功労者環境大臣表彰受賞  
第三小学校が環境省環境管理局水環境部長表彰受賞  
「松明あかし炎のレクイエム」が日本産業映画ビデオコンクール大賞を受賞
  - ◎9月 公立岩瀬病院が救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞
  - ◎10月 教育委員会研修用バス「牡丹工ゼル号」運行開始
  - ◎11月 2005ふくしまふるさとCM大賞で大賞を受賞

疾走するゼッケン「6」、16人の選手がつかないだ栄光の軌跡

# 福島県縦断駅伝競走大会で 須賀川市チームが初優勝



ふくしま駅伝表彰式  
(11月19日)

S U K A G A W A

# 2006

平

成年年に第1回が開催された市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会は、県民の恒例行事として定着しています。コースは白河市から福島市に向けて福島県の中央部を縦断するもので、県内の市町村対抗で行われています。

本市も毎年参加しており、平成18年の第18回大会では悲願の初優勝を果たしました。大会は11月19日に開催されました。午前7時50分、53人のランナーが白河総合運動公園陸上競技場をスタートし、96・2キロメートル先の福島県庁を目指しました。

須賀川市チームは安藤昭人監督のもと、中学2年生から社会人までの16人の選手が気持ち一つにしてたすきをつ



16人の選手のきずなで勝ちとった優勝旗

なぎました。大会の模様はテレビでも中継され、沿道で声援を送った人たちのほかに、多くの市民がテレビの前でゼッケン「6」をつけた本市の選手を応援しました。スタートからおよそ5時間後、福島県庁前のゴール地点で待つ選手とスタッフの目に、

須賀川市チームのアンカー半田選手がトップで飛び込んできました。先に走った選手とスタッフは勝利を確信していましたが、半田選手は2位のチームとのタイム差が分からず、必死にラストスパートをかけゴールテープを切りました。

須賀川市、長沼町、岩瀬村が合併し、新しい須賀川市が誕生した翌年に、まさに3つの市町村の力が結集された優勝となりました。



トップでゴールテープを切る半田選手  
(福島民報社提供)



10月25日、今泉橋が竣工  
(写真は10月27日の今泉橋渡橋式)



須賀川地域安全安心ステーション開設 (4月3日)



長沼東保育所開所式 (4月5日)

## 「円谷幸吉メモリアルホール」オープン

10月14日、須賀川アリーナに「円谷幸吉メモリアルホール」がオープンしました。

昭和39年、東京オリンピックのマラソンで銅メダルに輝いた円谷幸吉選手。この不世出の名ランナーは昭和15年、本市に生まれました。円谷選手は東京オリンピックをはじめ、数々の国際大会に出場して活躍しましたが、足のけがや腰の不調、精神的な重圧に悩み、メキシコオリンピックを前に自らの命を絶つてしまいました。享年27歳の短すぎる生涯でした。

「円谷幸吉メモリアルホール」では、その偉業を長く後世に伝えることを目的に、円谷家から寄贈された貴重な遺品を展示しています。



円谷幸吉メモリアルホールオープン

## SUS株式会社と 土地売買契約を調印



SUS (株)と土地売買契約を調印 (拡張用地)

平成13年に開かれた博覧会「うつくしま未来博」の会場跡地に、先進の産業を集積し、職・住・遊・学の機能を合わせ持つ新たな都市として須賀川テクニカルリサーチガーデンが整備されています。

自然豊かな地域環境や福島空港にも近い立地から、東北進出を図る全国の企業に向けて、積極的に誘致が進められています。

この年、アルミ製機器製品の製造販売を行う「SUS株式会社(本社静岡県静岡市)」との間に平成15年の土地売買契約に続き、第2工場の拡張用地の土地売買契約が成立し、11月9日調印が行われました。現在アルミ構造材の製造から組み立て販売を行う事業用地として活用されています。



大阪路線搭乗者300万人達成 (3月8日)



第22回長沼まつり (9月9日)



旧暦のうるう年に行われる榊神社太鼓獅子 (10月1日)

- ◎3月 須賀川市土地改良区が第47回全国土地改良功労者銀賞受賞
- ◎4月 中央、西部、東部、長沼・岩瀬地域包括支援センターが設置される
- ◎5月 西袋第二小学校が平成17年度全日本学校関係緑化コンクール準特選(国土緑化推進機構会長賞)を受賞
- ◎6月 第三小学校が環境保全功労者等環境大臣表彰(地域環境保全功労者)受賞
- ◎7月 丸田翠ヶ丘線池上町工区開通
- ◎10月 須賀川アリーナに円谷幸吉メモリアルホール開設(オープンセレモニーは翌年1月)
- ◎11月 SUS(株)と須賀川テクニカルリサーチガーデン企業用地土地売買契約調印
- ◎12月 第18回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会(ふくしま駅伝)で須賀川市チームが悲願の初優勝を飾る
- ◎12月 フクイシンター(株)と須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印

## Chronicle of 2006

福祉の拠点施設、そして中心市街地活性化の一翼として

# 少子高齢化社会を見据えて 総合福祉センターがオープン



33年ぶりに古寺山自奉楽が奉納される(4月26日)

S U K A G A W A

# 2007

## 中

心市街地の松明通りに面した空き店舗を利用して、平成19年4月1日に総合福祉センターがオープンしました。この空き店舗はかつて中心市街地のシンボルでもあったデパートでしたが閉店によって地域の空洞化が危惧されていました。総合福祉センターは少子高齢化に対応する福祉拠点のほかに、街なかに賑わいを創出することで中心市街地の活性化を図る目的をもって整備されました。



総合福祉センターオープニングセレモニー

2階は福祉行政機能として、市の社会福祉課と高齢福祉課が配置され、須賀川市社会福祉協議会も総合福祉センターに移転しました。3階には子育て支援の機能、4階には学習機能を備え、5階には催事や展示ができる大規模なスペースも設け

られました。総合福祉センターのオープンに際しては、須賀川商工会議所主催の「角田磐谷展」が開催されました。角田磐谷画伯は石川町出身で、大正末期から昭和にかけて活躍した日本画家です。画伯は戦後須賀川牡丹園近くにアトリエを構えていたことから、市民から「牡丹の磐谷」と称された須賀川を代表する近代画家の一人です。総合福祉センター開設後は、福祉の拠点として市民が活用し、センター内のキッズコーナーには親や祖父母に連れられた子どもたちが訪れるなど、中心市街地の活性化の一翼を担ってきましたが、東日本大震災で被災し、閉鎖されました。



総合福祉センター内のキッズコーナーは子どもたちに大人気



合併後初の選挙で当選した市議会議員(4月22日)



白方小学校「一本松」とのお別れ会(12月22日)



ちびっこ市民バス(8月10日)

## 新たな子育て拠点 白江こども園が開園

4月7日、0歳児から就学期までの乳幼児に一貫した教育、保育を行う新たな施設として、白江こども園が開園しました。この施設は、これまでの白江幼稚園に保育園と子育て支援センターの機能を兼ね備え、親子が安全な遊び場でふれあい、くつろぎ、母親同士が気軽に交流できる場を提供しています。また、子育てに関する情報の提供、困りごとや悩みごとについて気軽に相談できる窓口も開設しています。開園式では、関係者約50人が見守る中、園児2人も参加してテープカットが行われました。



笑顔いっぱい白江こども園



東部環状線の全線開通式

## 東部環状線が全線開通

街中の交通混雑を解消するために、昭和59年度から整備が進められてきた東部環状線が、着工から23年を経て4月3日に全線開通しました。東部環状線は、須賀川市池下の国道4号から広表の国道118号バイパスまでの市街地東部を縦断する、総延長5.11キロメートル、幅員22メートルの都市計画道路です。沿線には、将来の発展を展望して大型商業施設が相次いで進出しています。待望の道路の開通により、周辺の交通事情の改善が図られるとともに、沿線の利便性が大きく向上しました。



藤沼湖畔マラソン大会(8月19日)



ふれあいまつり(9月9日)



養老孟司ムシテックワールド館長の特別講座(10月6日)

◎1月 窓口のワンストップサービス開始  
◎2月 南山製作所と須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印  
◎3月 戸籍事務のコンピューター化  
市役所・総合福祉センターに住民票などの自動交付機設置  
地域イントラネットが稼働  
栄町遺跡のモニユメントが設置される  
災害時の医療救護活動協定を調印  
◎4月 総合福祉センターオープン  
東部環状線が全線開通  
白江こども園開園  
合併後初の市議会議員選挙  
33年ぶりに古寺山自奉楽が奉納  
◎5月 長沼まつり実行委員会がみんゆう県民大賞ふるさと賞受賞  
ムシテックワールドの入館者が30万人を突破  
◎7月 「田ここの月かげ」上演  
◎8月 すかがわ手作り市民劇第4弾「田ここの月かげ」上演  
◎9月 (株)イシテックと須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印  
女声合唱団「すかがわ」が全日本お母さんコーラス全国大会お母さんコーラス大会受賞  
◎10月 第二中学校吹奏楽部がこども音楽コンクール東北大会最優秀賞受賞・全国大会出場  
◎12月 白方小学校「一本松」とのお別れ会

## Chronicle of 2007

自らのまちを自らつくる、市民との協働によるまちづくりを推進

# 市制施行以来、6人目の市長として 橋本克也氏が初当選を果たす



牡丹大使の演歌歌手  
門倉有希さんのミニトークショー  
(5月9日・須賀川牡丹園)

## S U K A G A W A 2008

**平** 成20年7月13日、前職の任期満了に伴う須賀川市長選が告示され、7月20日に投票が行われました。当時の有権者数は63,507人、投票者数は36,671人、投票率は57.74パーセントでした。

当選したのは福島県議会議員を4期務めた無所属で新人の橋本克也氏。  
橋本氏は8月11日の市長就任後、市勢進展と8万市民の危機管理に全力を尽くさなければならぬ職責の重さを改めて感じていると、述べるとともに、福島空港からのJAL撤退については、福島県及び隣接市町村と連携を図り、新たな展開も含めて、しっかりと対応することを表明しました。



橋本新市長が初登庁 (8月11日)

また、市民の生命と健康を守るための地域医療の確保と、産業振興による地域経済の循環に活路を見出すための施策についても早急に取り組んでいく決意を表明。  
さらに今後の市政運営については、「意識・価値観の共有」「ネットワークの活用」「スピリット」を持って行政経営「循環」

環の理念」という4つの考え方を基本とし、生活、産業、医療、福祉、教育、文化、環境などのあらゆる分野の課題に取り組みでいくという方針も打ち出しました。  
地方自治体を取り巻く環境が厳しさを増すなかで、自治に対する住民の意識の差が他の自治体との差になるとの考えから、市民との協働を強く訴えかけた橋本新市長による新たな須賀川の市政がスタートしたのです。



市役所正庁で行われた  
当選証書付与式



白方こども園の開園式 (4月8日)



三世交代館で行われた「むかしの正月料理」  
(12月20日)



ほたる&水とみどりのふるさとまつり (7月27日)

### 須賀川牡丹園保勝会が「花の観光地づくり」奨励賞を受賞

国内有数の規模と歴史を誇る須賀川牡丹園を管理運営する財団法人須賀川牡丹園保勝会が、8月7日、日本観光協会「花の観光地づくり」奨励賞を受賞しました。

この賞は花の名所や景観を整備する「花の観光地づくり」事業を推進し、地域の観光振興に寄与している団体などを表彰し、さらなる発展を支援するために設けられたものです。

1766年、薬用に栽培されたのが始まりという歴史ある須賀川牡丹園。その価値ある牡丹の数々を丹精に守り育て発展させてきた努力が評価されている。これを弾みとし、観光資源としていっそう脚光を浴びることが期待されています。

### すかがわ国際短編映画祭 20回記念の映像コンクール開催

世界中から選りすぐったドキュメンタリーやドラマ、アニメなどの短編映画を上映し、市民に親しまれてきた「すかがわ国際短編映画祭」。



第20回すかがわ国際短編映画祭 (5月10・11日)

がわ国際短編映画祭。平成元年に始まったこのイベントが、この年、第20回を迎えました。この節目を記念して「映像コンクール」が開催され、県内外から31本にのぼる作品が寄せられ、秀作6作品が入賞しました。  
5月10日には、文化センターを会場に、応募作品の上映と結果発表、表彰式が行われました。当日は、日本の短編アニメの第一人者・山村浩二氏によるゲストトークなども行われ、会場は熱気に包まれました。



高齢者市政トークキングが岩瀬地域を皮切りにスタート (10月8日)



すかがわ産業フェスティバル (10月25日・26日)



まちなかブライザイルミネーション点灯式 (11月21日)

## Chronicle of 2008

- ◎3月 初のドクターヘリ・デモフライトシミュレーションを実施  
福島空港開港15周年イベント開催
- ◎4月 白方こども園開園  
友好都市締結15周年を迎え、市と日中友好協会などが中国洛陽市を訪問  
須賀川・長沼・岩瀬の3地域水道事業の統合
- ◎5月 すかがわ国際短編映画祭第20回記念映像コンクールを開催  
南部地区まちづくり推進に関する協働基本合意書の調印式が行われる
- ◎6月 西袋第二小学校が全日本学校関係緑化コンクール学校環境緑化の部準特選を受賞  
南部地区(3地区)のまちづくり協定が県の優良景観形成住民協定として知事認定
- ◎7月 奥州須賀川松明太鼓保存会創設20周年記念式典が行われる  
任期満了に伴う須賀川市長選挙で橋本克也氏が初当選
- ◎8月 須賀川牡丹園保勝会が日本観光協会花の観光地づくり奨励賞を受賞
- ◎10月 第三小学校校舎新築工事の安全祈願祭  
阿武隈川かわせみウォーキングコースオープン